

授業には目標があるのを知っていますか？

どんな授業にも、その日の授業の目標があります。そして、先生達はその目標について授業の最初に話をするようにしています。それを、ただボンヤリと通りすぎてしまうか、それとも「ああ、今日はそんなことをするんだなあ」と自分の中にインプットするのでは、その時間の授業の身のつきかたも随分と違ったものになります。



たとえば、ただひたすら目標(ゴール)もなく歩く(走る)のは疲れます。疲れてへこたれることもあります。でも、今、歩いているけどどこまで歩けばいいのか?とか、今、ゴール前のどのへんまできているのか?がわかった方が、疲れも半減しますし、疲れも心地よいものになることさへあります。

そしてさらに、授業の目標があるのを知っている人の強みは授業の後半に加速度的に出てきます。それは、授業の後半になって、それまでの時間にやっていた授業の中味がわかってきたりするからです。それはあたかも推理小説やドラマでその後半に結末が見えてくるとそれまでのいろんな出来事や人のことがドンドンわかっていくのと似ています。

だから、推理小説やドラマで、誰が犯人なのかな?という結末へのワクワク感やドキドキ感をもってその世界に入るからこそおもしろいのも同じで、授業でも今日の目標は何なのかとインプットして授業の世界に入ってこそ、授業のおもしろさが出てくるのです。



今回は、そういう授業を大切にするための「西中授業通信」の第二号として、授業には目標がある。そして、その目標をただボンヤリと通りすぎてしまうのではなく、「ああ、今日はそんなことをするんだなあ」と自分の中にインプットして授業にのぞんでくださいというアドバイスでした。